

## 実践報告

## 札幌市立常盤小学校

継続研究 5 年目

### (1) 研究内容

研究課題：「サッポロピリカコタン」の活用に関する研究

- 4年生の社会科の学習と関連させ、札幌市アイヌ文化交流センター「サッポロピリカコタン」の展示資料等の見学及び同センターの小中学生団体体験プログラムを活用した体験学習を行うなど、アイヌ民族の文化や歴史について具体物に触れながら学習し、文化について理解と人権意識の深化を図る。

### (2) 実践の内容

【実践】社会 「昔から今へと続くまちづくり」

中単元1 アイヌ民族の生活と文化について

#### ○ ねらい

- ・アイヌ文化交流センターの展示物や施設を見学し、アイヌ民族の文化と歴史についての一層の理解を図る。
- ・アイヌ民族の方から歴史や文化に関する講話を聞き、人権意識の深化を図る。

#### ○ 学習内容

<第1次>

◇教科書や資料集、インターネット等でアイヌ民族の生活や文化についての知識を得る。

1) 社会科「アイヌ民族の生活と文化」(3時間)

- ・アイヌ民族の生活…衣・食・住、遊びと自然、文化、芸術
- ・アイヌ民族と和人の出会い

2) 社会科「アイヌ民族の歴史と人権」(～江戸時代/明治～昭和時代)(2時間)

- ・当時のアイヌ民族と和人の関係から人権意識を深める。

<第2次>

◇アイヌ文化交流センターのプログラムを活用し自分が学びたいテーマを決める。

1) センターを訪問し、見学や体験学習を行う。(3時間)

①講話

②楽器の生演奏・舞踊鑑賞と体験

③アイヌ民族の子どもの遊び体験

④施設見学(館内展示室、チセ・丸木舟等屋外展示物の見学)

⑤児童からの質疑



### <第3次>

◇アイヌ文化交流センターや映像資料等で得た情報を各自のテーマにそってまとめ、発表する。

#### 1) 調べ学習のまとめ (3時間)

学校の授業においてワークシートを使って学習の振り返りを行うとともに、アイヌ文化交流センター等で得られたアイヌ民族のくらしや文化、人権についてまとめた。

#### 2) 授業参観で発表する。(1時間)

- ・調べたことを分かりやすく紙芝居風に発表する。



### (3) 研究のまとめ

#### ① 成果

本校では、5年間継続してこの研究に取り組み、次のような成果を得ることができた。

- ・児童は、講師のお話や楽器の生演奏、舞踊の鑑賞・体験、子どもの遊び等のプログラムに参加することにより、今までインターネットや本等の資料の中の世界だったものに直に触れることができた。体験活動により、アイヌ民族の文化をより身近に感じていた。
- ・教師は、アイヌ民族の文化やアイヌ民族と和人の関わり等について資料を事前に調べたり、ピリカコタンの資料に直接触れたりすることで、アイヌ民族の文化やアイヌ民族と和人の関わり等を実感として捉え、より深い理解のもとで指導することができた。
- ・児童、教師ともに、アイヌ民族の文化に関する話、展示物の見学等を通じ、アイヌ民族の自然観、アイヌ民族の文化の奥深さに触れ、アイヌ民族の文化やアイヌ民族への見方が変容し、一層の敬意をもつことができた。このことは、人権意識の大きな高まりと捉えている。
- ・継続研究を通し、多くの資料を蓄積することができた。この取組が契機となり、NHKから「夷酋列像」に関する資料をいただくこともできた。児童は、「知里幸恵」を取り上げる等、別の視点から探ろうとする意識の高まりも見られた。

#### ② 課題

- ・体験プログラムで学んだ事柄を児童個々の新たな学びの視点となるように、1時間程度を見学時間として確保したが、同センターの展示室や自然の森、歴史の森を自由に巡る時間の確保も大切であると感じた。
- ・4年生に位置付けたアイヌ民族の文化を窓口とした「人権教育」を、高学年の人権教育に効果的につなげる教育課程を考えていきたい。

#### ③ 提言「人権教育のすすめ」

- ・「人権」を更に意識させるために、「和人」と「アイヌ民族」の文化や考え方等について、考える場面を設定してはどうか。人権が脅かされている側、脅かす側の両方の立場を理解することで「人権」に対する意識がより育つのではないかと考える。